

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-192034

(P2012-192034A)

(43) 公開日 平成24年10月11日(2012.10.11)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 B 61/00 (2006.01)	A 4 7 B 61/00	5 O 1 C
A 4 7 B 57/34 (2006.01)	A 4 7 B 57/34	
A 4 7 B 57/42 (2006.01)	A 4 7 B 57/42	B
A 4 7 B 57/48 (2006.01)	A 4 7 B 57/48	A
	A 4 7 B 61/00	5 O 1 D
審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 13 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号 特願2011-58148 (P2011-58148)
 (22) 出願日 平成23年3月16日 (2011. 3. 16)

(71) 出願人 390037154
 大和ハウス工業株式会社
 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号
 (71) 出願人 505336873
 株式会社近藤典子Home & Life 研究所
 東京都新宿区山吹町130番地16号 エ
 スポワール21-5F
 (72) 発明者 在原 典子
 東京都新宿区西早稲田1丁目18番9号
 WASEDA HIRAI BLDG 7
 F 株式会社近藤典子Home & Life
 研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 収納空間構造

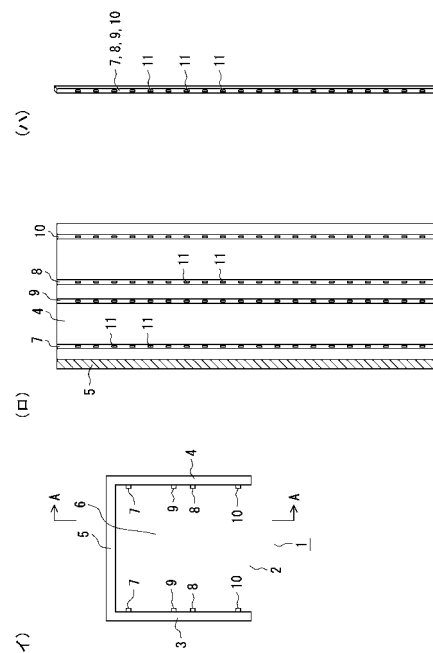
(57) 【要約】

【課題】 収納空間の効率的な利用を実現するための収納空間構造を提供する。

【解決手段】 開口部を有する正面部2と、左右の側壁部3、4と、背面部5により四周の壁面を構成される収納空間6において、壁面に垂直に備えられ、壁面の任意の高さ位置に係止片を取り付けることができるレール材であって、

第1のレール材7が、側壁部3、4の背面部5と接する端部より50～100mmの位置に備えられ、第2のレール材8が、第1のレール材7より正面部2側に350～450mmの間隔をあけて備えられ、第3のレール材9が、第2のレール材8より背面部側5に20～100mmの間隔をあけて備えられ、第4のレール材10が、第3のレール材9より正面部2側に350～450mmの間隔をあけて備えられており、それぞれのレール材の任意の位置にハンガーパイプ16及び棚板17が取り付けられている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

開口部を有する正面部と、左右の側壁部と、該左右の側壁部を連設する背面部により四周の壁面を構成される平面視矩形の収納空間において、

壁面に垂直に備えられ、壁面の任意の高さ位置に係止片を取り付けることができるレール材であって、

第 1 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、側壁部の背面部と接する端部より 50 ~ 100 mm の位置に備えられ、

第 2 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、該第 1 のレール材より正面部側に 350 ~ 450 mm の間隔をあけて備えられており、

第 1 のレール材、及び / 又は第 2 のレール材の、それぞれ対となる同じ高さ位置に係止片を取り付け、該係止片にハンガーパイプを、左右の側壁部間に渡すように取り付けることができることを特徴とする収納空間構造。

【請求項 2】

開口部を有する正面部と、左右の側壁部と、該左右の側壁部を連設する背面部により四周の壁面を構成される平面視矩形の収納空間において、

壁面に垂直に備えられ、壁面の任意の高さ位置に係止片を取り付けることができるレール材であって、

第 1 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、側壁部の背面部と接する端部より 50 ~ 100 mm の位置に備えられ、

第 2 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、該第 1 のレール材より正面部側に 350 ~ 450 mm の間隔をあけて備えられ、

第 3 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、該第 2 のレール材より背面部側に 20 ~ 100 mm の間隔をあけて備えられ、

第 4 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、該第 3 のレール材より正面部側に 350 ~ 450 mm の間隔をあけて備えられており、

それぞれのレール材に係止片が取り付けられ、

それぞれ対の第 1 のレール材と第 3 のレール材、及び / 又はそれぞれ対の第 2 のレール材と第 4 のレール材とに渡すように棚板を取り付けることができる収納空間構造。

【請求項 3】

前記収納空間において、正面部から背面部までの奥行きが壁芯で 900 ~ 1000 mm である請求項 1 乃至 2 に記載の収納空間構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、効率的な収納を行うことができる収納空間に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来より、収納空間内の壁面に、ハンガーパイプや棚板に係止する係止片を、任意の高さ位置に取り付けることができるレール材を設け、収納する物品に合わせて、係止片の取り付け高さを変更し、ハンガーパイプや棚板の取り付け高さを自由に変更できる収納空間構造は提案されている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2005 - 261580 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかし、このような収納空間構造では、ハンガーパイプや棚板の高さ位置や個数を使用

10

20

30

40

50

者の希望により選択することはできるが、収納空間内を効率的に利用できているとはいいい難かった。

【 0 0 0 5 】

特に、効率的な収納空間の使い方についてノウハウのない一般的な使用者にとっては、この問題は顕著であった。

【 0 0 0 6 】

本発明は、以上のような問題点に鑑み、収納空間の効率的な利用を実現するための収納空間構造を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

上記の課題は、開口部を有する正面部と、左右の側壁部と、該左右の側壁部を連設する背面部により四周の壁面を構成される平面視矩形の収納空間において、

壁面に垂直に備えられ、壁面の任意の高さ位置に係止片を取り付けることができるレール材であって、

第 1 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、側壁部の背面部と接する端部より 5 0 ~ 1 0 0 m m の位置に備えられ、

第 2 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、該第 1 のレール材より正面部側に 3 5 0 ~ 4 5 0 m m の間隔をあけて備えられており、

第 1 のレール材、及び / 又は第 2 のレール材の、それぞれ対となる同じ高さ位置に係止片を取り付け、該係止片にハンガーパイプを、左右の側壁部間に渡すように取り付けることができることを特徴とする収納空間構造により解決される。

【 0 0 0 8 】

この収納空間構造では、第 1 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、側壁部の背面部と接する端部より 5 0 ~ 1 0 0 m m の位置に備えられており、第 1 のレール材に取り付けられた対の係止片に、ハンガーパイプが、左右の側壁部間に渡すように取り付けられているので、このハンガーパイプにハンガーを介して吊るすジャケット類やズボン類などを背面部と平行になるように吊るすことができ、収納空間の奥側の空間を有効に利用することができる。

【 0 0 0 9 】

また、第 2 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、第 1 のレール材より正面部側に 3 5 0 ~ 4 5 0 m m の間隔をあけて備えられており、第 2 のレール材に取り付けられた対の係止片に、ハンガーパイプが、左右の側壁部間に渡すように取り付けられているので、このハンガーパイプにハンガーを介して吊るすジャケット類やズボン類などを左右の側壁部と平行に吊るすことができ、第 1 のレール材に取り付けられたハンガーパイプと相まって、収納空間を効率的に利用することができる。

【 0 0 1 0 】

つまり、第 2 のレール材に取り付けられるハンガーパイプには、左右の側壁部と平行にジャケット類やズボン類などが吊り下げられ、その吊るされたジャケット類やズボン類と背面部との隙間に、第 1 のレール材に取り付けられたハンガーパイプに、背面部と平行にジャケット類やズボン類などが吊り下げられるため、収納空間内を効率的に利用することができる。

【 0 0 1 1 】

また、上記の課題は、開口部を有する正面部と、左右の側壁部と、該左右の側壁部を連設する背面部により四周の壁面を構成される平面視矩形の収納空間において、

壁面に垂直に備えられ、壁面の任意の高さ位置に係止片を取り付けることができるレール材であって、

第 1 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、側壁部の背面部と接する端部より 5 0 ~ 1 0 0 m m の位置に備えられ、

第 2 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、該第 1 のレール材より正面部側に 3 5 0 ~ 4 5 0 m m の間隔をあけて備えられ、

10

20

30

40

50

第 3 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、該第 2 のレール材より背面部側に 200 ~ 1000 mm の間隔をあけて備えられ、

第 4 のレール材が、対で、左右の側壁部にそれぞれ、該第 3 のレール材より正面部側に 350 ~ 450 mm の間隔をあけて備えられており、

それぞれのレール材に係止片が取り付けられ、

それぞれ対の第 1 のレール材と第 3 のレール材、及び / 又はそれぞれ対の第 2 のレール材と第 4 のレール材とに渡すように棚板を取り付けることができる収納空間構造により解決される。

【0012】

第 1 のレール材、第 2 のレール材、第 3 のレール材及び第 4 のレール材が、対で、それぞれ左右の側壁部に設けられ、それぞれ対の第 1 のレール材と第 3 のレール材、及び / 又はそれぞれ対の第 2 のレール材と第 4 のレール材とに渡すように棚板が供えられているので、収納空間の正面部側と背面部側とで、異なる高さ位置に棚板を設けることができ、収納空間内の使用者の自由に区分けすることができ、効率的に収納空間を使用することができる。さらに、棚板の奥行き長さが、第 1 のレール材と第 3 のレール材、又は第 2 のレール材と第 4 のレール材の間隔にあわせて設定されているため、棚板の奥行き寸法は 250 ~ 430 mm となるため、棚板の取り付けや取り外し時には、腕の肘から先端側を棚板の裏側に当てて持ち上げることで、バランスよく棚板の取り付け、取り外し動作を行うことができ、棚板の取り付け作業が苦手な使用者であっても、容易に収納空間内の棚板の取替えを行うことができる。

【0013】

前記収納空間において、正面部から背面部までの奥行きが壁芯で 900 ~ 1000 mm であるといよい。

【0014】

収納空間の奥行き寸法を、日本の標準家屋の基本モジュールである壁芯で 900 ~ 1000 mm 内とすることで、この収納空間構造は、収納空間の余分な空きスペースをなくし、空間を効率的に活用する収納空間とすることができる。

【発明の効果】

【0015】

本発明は以上のとおりであるから、収納空間の効率的な利用を実現するための収納空間構造を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図 1】本発明の実施形態である収納空間構造であって、図（イ）は断面平面図、図（ロ）は、図（イ）の A - A 線断面図、図（ハ）は、レール材を示す斜視図である。

【図 2】図（イ）は、ハンガーパイプの取付構造を示すものであって、構成部品を分解して示す斜視図、図（ロ）は、棚板の取付構造を示すものであって、構成部品を分解して示す斜視図である。

【図 3】図（イ）は、収納空間にハンガーパイプを取り付け、衣類など収納物を収納した状態を示す断面平面図、図（ロ）は、図（イ）の B - B 線断面図である。

【図 4】図（イ）は、収納空間に棚板を取り付けた状態を示す断面平面図、図（ロ）、収納物を収納した状態を示す断面側面図である。

【図 5】棚板の取り付け、取り外し動作を示す断面側面図である。

【図 6】図（イ）は、参考実施例であって、棚板と小型の棚板を取り付けた状態を示す断面平面図、図（ロ）は、小型の棚板の取付構造を示すものであって、構成部品を分解して示す斜視図である。

【図 7】図（イ）は、参考実施例を示す斜視図、図（ロ）はその利用状況を示す断面平面図である。

【図 8】図（イ）、（ロ）は、他の参考実施例を示す斜視図である。

【図 9】他の参考実施例を示す斜視図である。

10

20

30

40

50

【図 10】他の参考実施例を示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

次に、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。

【0018】

図 1 に示す本発明の実施形態である収納空間構造 1 において、2 は全面が開口している正面部、3, 4 はそれぞれ左右の側壁部、5 は背面部であり、背面部 5 により左右の側壁部は連設され、正面部 2、側壁部 3, 4、背面部 5 により、この収納空間構造 1 は、平面視コの字型の収納空間 6 を形成している。

【0019】

側壁部 3, 4 及び背面部 5 は、たとえば、木製の下地棧にプラスターボードをビスで固定し、表面の仕上げにクロスを貼り付けて構成されている。収納空間 6 の寸法は、ここでは、幅寸法、奥行寸法ともに、壁芯で 910 mm となっており、下地棧、プラスターボードの厚みを除いた内寸法は 821 mm となっている。

【0020】

7, 8, 9, 10 はそれぞれ、左右の側壁部 3, 4 にそれぞれ対で、壁面に対して垂直に取り付けられるレール材であって、図 1 (ハ) に示すように、長尺方向にそって複数の孔 11 が設けられ、任意の孔 11 に後述する係止片を取り付けることで、壁面の任意の高さ位置に係止片を取り付けることができるようになされている。なお、レール材 7, 8, 9, 10 に設けられる最上端の孔 11 は、天井面より 70 mm 以上の間隔を確保して設けられている。天井面より 70 mm 以上の間隔を確保しておくことで、後述するように係止片を介してハンガーパイプを取り付けたときに、ハンガーパイプの上側に隙間が確保され、ハンガーパイプに対するハンガーの引っ掛け、取り外し動作の容易さ、及び上部空間での空気の流れを確保することができる。

【0021】

7, 7 は、第 1 のレール材であり、対で、左右の側壁部 3, 4 にそれぞれ、側壁部 3, 4 の背面部 5 と接する端部より 50 ~ 100 mm の位置に、壁面に垂直に備えられている。

【0022】

8, 8 は、第 2 のレール材であり、対で、左右の側壁部 3, 4 にそれぞれ、第 1 のレール材 7, 7 より正面部 2 側に 350 ~ 450 mm の間隔をあけて備えられている。

【0023】

9, 9 は、第 3 のレール材であり、対で、左右の側壁部 3, 4 にそれぞれ、第 2 のレール材 8, 8 より背面部 5 側に 20 ~ 100 mm の間隔をあけて備えられている。

【0024】

10, 10 は、第 4 のレール材であり、対で、左右の側壁部 3, 4 にそれぞれ、第 3 のレール材 9, 9 より正面部 2 側に 350 ~ 450 mm の間隔をあけて備えられている。

【0025】

図 2 (イ) に示すように、レール材 7, 8, 9, 10 に設けられた孔 11 にハンガーパイプ取付用係止片 12 を取り付け、係止片 12 を介して、円筒型のハンガーパイプ 16 が、対となるレール材間に、側壁部 3, 4 間に渡すように取り付けられる。

【0026】

ハンガーパイプ取付用係止片 12 は、レール材 7, 8, 9, 10 に当接する当接面を有する当接部 13 と、当接部から突設し、レール材 7, 8, 9, 10 の孔 11 に差込み、ハンガーパイプ取付用係止片 12 を固定する鉤型の係止部 14 と、当接部 13 の係止部 14 が突設する側とは反対側に設けられ、ハンガーパイプ 16 の端部を支承する断面半円型の受け部 15 とからなる。

【0027】

図 2 (ロ) に示すように、棚板 17 は、矩形の平板材からなり、幅寸法は、収納空間 6 の左右の側壁部 3, 4 間を渡す長さとなっており、奥行き寸法は、第 1 のレール材 7, 7

10

20

30

40

50

と第 3 のレール材 9 , 9、又は / 及び第 2 のレール材 8 , 8 と第 4 のレール材 1 0 , 1 0 間を渡して取り付けることができる寸法となっている。

【 0 0 2 8 】

棚板 1 7 の裏面 1 8 の左右両端側には、棚板取付用係止片 2 0 に係止するための止付部 1 9 が、左右 2 箇所ずつ設けられている。なお、左右それぞれの止付部 1 9 間の寸法は、第 1 のレール材 7 , 7 と第 3 のレール材 9 , 9、及び第 2 のレール材 8 , 8 と第 4 のレール材 1 0 , 1 0 との距離にあわせられている。

【 0 0 2 9 】

棚板取付用係止片 2 0 は、円柱型の係止部本体 2 1 と、係止部本体 2 1 の端部から突設し、レール材 7 , 8 , 9 , 1 0 の孔 1 1 に差込み、棚板取付用係止片 2 0 を固定する鉤型の係止部 2 2 とからなる。

10

【 0 0 3 0 】

この収納空間構造 1 では、各レール材 7 , 8 , 9 , 1 0 の孔 1 1 の任意の高さ位置に係止片 1 2 , 2 0 を取り付け、係止片 1 2 , 2 0 を介して、ハンガーパイプ 1 6 や棚板 1 7 を取り付けることで収納空間 6 内をさまざまなバリエーションを持つ収納に変化させることができる。

【 0 0 3 1 】

図 3 に示すように、左右の側壁部 3 , 4 にそれぞれ対で取り付けられた第 1 のレール材 7 , 7 及び第 2 のレール材 8 , 8 間に、ハンガーパイプ取付用係止片 1 2 を介して、ハンガーパイプ 1 6 がそれぞれ高さ方向に位置を異ならせて複数本取り付けられている。そして、ハンガーパイプ 1 6 には、ハンガー 2 3 が吊り下げられ、ハンガー 2 3 により、ジャケット、ズボン、シャツなどの衣類 2 4 が吊り下げられている。

20

【 0 0 3 2 】

第 1 のレール材 7 , 7 に渡されたハンガーパイプ 1 6 に吊り下げられた衣類 2 4 は、衣類 2 4 の表裏面が背面部 5 と平行となるように吊るされ、第 2 のレール材 8 , 8 に渡されたハンガーパイプ 1 6 に吊り下げられた衣類 2 4 は、衣類 2 4 の表裏面が左右の側壁部 3 , 4 と平行となるように吊るされることで、狭い収納空間であっても効率的に衣類 2 4 を吊るすことができる。特に、一般的な日本の住宅では壁芯で 9 0 0 ~ 1 0 0 0 mm 角のグリッド単位で平面が区画されており、奥行寸法が壁芯で 9 0 0 ~ 1 0 0 0 mm の収納空間が多いなかで、従来は、側壁部の中央に渡されたハンガーパイプに衣類を吊るすだけだったのを、本発明の収納空間構造 1 のように、レール材を配置することで、同じ収納空間であっても、衣類と壁面の間に生じるわずかなスペースを効率的に利用して、収納空間の収納効率を向上させることができる。

30

【 0 0 3 3 】

なお、図 3 (口) に示すように、第 1 のレール材 7 , 7 及び第 2 のレール材 8 , 8 の任意の高さ位置にハンガーパイプ取付用係止片 1 2 を介してハンガーパイプ 1 6 を取り付けることで、ハンガー 2 3 に吊るした高さ寸法が異なる衣類 2 4 を効率的に収納することができる。なお、この実施例では、収納する対象物を衣類としているが、収納される物品は、ジャケット、ズボン、シャツなどの衣類だけに限らず、バッグやネクタイなど他のものであってもよいのはいうまでもない。

40

【 0 0 3 4 】

図 4 に示すように、左右の側壁部 3 , 4 にそれぞれ対で取り付けられた第 1 のレール材 7 , 7 及び第 3 のレール材 9 , 9 間に、棚板取付用係止片 2 0 を介して、棚板 1 7 がそれぞれ高さ方向に位置を異ならせて複数箇所取り付けられ、また、左右の側壁部 3 , 4 にそれぞれ対で取り付けられた第 2 のレール材 8 , 8 及び第 4 のレール材 1 0 , 1 0 間に、棚板取付用係止片 2 0 を介して、棚板 1 7 がそれぞれ高さ方向に位置を異ならせて複数箇所取り付けられている。そして、棚板 1 7 の上には、箱に入った物品や靴、衣類、日用雑貨品などさまざまな物品 2 5 が載せられて収納されている。

【 0 0 3 5 】

50

この収納空間構造 1 では、左右それぞれの側壁部に、第 1 のレール材 7 , 7、第 2 のレール材 8 , 8、第 3 のレール材 9 , 9 及び第 4 のレール材 10 , 10 がそれぞれ対で取り付けられ、奥行き寸法が、第 1 のレール材 7 , 7 と第 3 のレール材 9 , 9、及び第 2 のレール材 8 , 8 と第 4 のレール材 10 , 10 間を渡して取り付けることができる寸法となっている棚板 17 が、第 1 のレール材 7 , 7 と第 3 のレール材 9 , 9、及び第 2 のレール材 8 , 8 と第 4 のレール材 10 , 10 間に渡して取付けられており、収納空間 6 内の正面部側と背面部側とで 2 枚の分割された棚板 17 が取り付けられている。

【 0 0 3 6 】

そのため、図 4 (口) に示すように、収納空間 6 内の正面部側と背面部側とで、棚板 17 の高さ位置を揃えたり、異ならせたりすることができ、任意の高さ位置に複数の棚板 17 を備え付けられるだけでなく、正面部側と背面部側とで棚板 17 の取り付け位置を異ならせることができ、収納物の大きさや内容によって、棚板 17 の位置をさまざまにかえることができ、さまざまなバリエーションの収納方法を実現することができる。

10

【 0 0 3 7 】

さらに、棚板 17 の奥行き長さが、第 1 のレール材と第 3 のレール材、又は第 2 のレール材と第 4 のレール材の間隔にあわせて設定されているため、棚板の奥行き長さは 250 ~ 450 mm となるため、図 5 に示すように、棚板の取り付けや取り外し時には、腕の肘から先端側を棚板の裏側に当てて持ち上げることで、バランスよく棚板の取り付け、取り外し動作を行うことができ、棚板の取り付け作業が苦手な使用者であっても、容易に収納空間内の棚板の取替えを行うことができる。

20

【 0 0 3 8 】

また、この収納空間構造 1 は、収納内容の変更に対応して、次のような使い方ができる。

【 0 0 3 9 】

図 6、7 に示す、参考実施例では、図 6 に示すように、左右の側壁部 3 , 4 にそれぞれ対で取り付けられた第 1 のレール材 7 , 7 及び第 3 のレール材 9 , 9 間に、棚板取付用係止片 20 を介して、棚板 17 がそれぞれ高さ方向に位置を異ならせて複数箇所取り付けられ、また、左の側壁部 3 に、取り付けられた第 2 のレール材 8 及び第 4 のレール材 10 間に、棚板取付用 L 型係止片 29 , 29 を介して、小型の棚板 26 がそれぞれ高さ方向に位置を異ならせて複数箇所取り付けられている。

30

【 0 0 4 0 】

図 6 (口) に示すように、小型の棚板 26 は、矩形の平板材からなり、奥行き寸法は、収納空間 6 の第 2 のレール材 8 と第 4 のレール材 10 間を渡す長さとなっており、幅寸法は、左右の側壁部 3 , 4 間に渡して取り付けられる棚板 17 の幅寸法の略半分程度の長さとなっている。そして、第 2 のレール材 8 及び第 4 のレール材 10 に取り付けられた棚板取付用 L 型係止片 29 , 29 を介して、第 2 のレール材 8 と第 4 のレール材 10 間を渡すように取り付けられている。

【 0 0 4 1 】

小型の棚板 26 の裏面 27 の左右両端部側には、棚板取付用 L 型係止片 29 に係止するための止付部 28 としての孔が、左右 2 箇所ずつ設けられている。なお、左右それぞれの止付部 28 間の寸法は、第 2 のレール材 8 と第 4 のレール材 10 との距離にあわせられている。

40

【 0 0 4 2 】

棚板取付用 L 型係止片 29 には、L 型に屈曲しており、L 型の一方の片には、レール材の孔 11 に差し込み、棚板取付用 L 型係止片 29 を固定する鉤型の係止部 30 , 30 が備えられ、もう一方の片には、棚板 26 の止付部 28 に係止する円筒型の突起部 31 , 31 が 2 つ備えられている。

【 0 0 4 3 】

この収納空間構造 1 では、奥行き寸法が、第 1 のレール材 7 , 7 と第 3 のレール材 9 , 9 間を渡して取り付けることができる長さで、幅寸法が、左右の側壁部 3 , 4 間を渡すよ

50

うに取り付けられる長さとなっている棚板 17 が、第 1 のレール材 7, 7 と第 3 のレール材 9, 9 間を渡して取り付けられており、奥行き寸法が、第 2 のレール材 8 と第 4 のレール材 10 間を渡す長さとなっており、幅寸法は、左右の側壁部 3, 4 間に渡して取り付けられる棚板 17 の幅寸法の略半分程度の長さとなっている小型の棚板 26 が、第 2 のレール材 8 と第 4 のレール材 10 間を渡すように取り付けられているので、図 7 (イ) に示すように、棚板 17 と小型の棚板 26 がレール材にそれぞれ同じ高さ位置に取り付けられた場合、棚板 17 と小型の棚板 26 とにより平面が略 L 字型棚板を形成することができる。

【0044】

この収納空間 6 内の略 L 字型の棚板では、図 7 (ロ) に示すように、人が略 L 字型の棚板の空隙部分 32 に半身を入れて動作をすることで、収納空間 6 の奥にまで容易にアクセスすることができる。なお、収納物は、棚板 17 と小型の棚板 26 それぞれに収納するだけでなく、棚板 17 と小型の棚板 26 とに渡すようにして収納してもよいのはいうまでもない。また、収納される物品に制限はない。

10

【0045】

上記の参考実施例では、棚板 17 と小型の棚板 26 がそれぞれ同一高さ位置に取り付けられている場合について示したが、それぞれの棚板が取り付けられる位置に制限はなく、収納空間 6 の活用方法によって自由に選択することができる。例えば、図 8 (イ) に示すように、最上段には、棚板 17 と棚板 17 の組み合わせ、上から 2 段目と 3 段目は、棚板 17 と小型の棚板 26 の組み合わせ、最下段は、棚板 17 のみとしてもよいし、図 8 (ロ) に示すように、最上段には、棚板 17 と棚板 17 の組み合わせ、上から 2 段目は、棚板 17 と小型の棚板 26 の組み合わせ、上から 3 段目は、棚板 17 のみ、上から 4 段目は、小型の棚板 26 を左側壁部に取り付け、最下段は小型の棚板 26 を右側壁部に取り付けるなど、自由に選択することができる。もちろん、小型の棚板 26 を第 1 のレール材 7 と第 3 のレール材 9 に渡すように取り付けるとよいのはいうまでもない。

20

【0046】

さらに、図 9 に示す参考実施例のように、棚板 17、26 とハンガーパイプ 16 とを組み合わせ取り付けてもよいのはいうまでもない。

【0047】

また、図 10 に示す参考実施例では、棚板にスリットの入ったスノコ状の棚板 33 を用いた場合である。スノコ状の棚板 33 を用いることで棚板 33 の上側と下側で空気の移動が起こり、例えば布団などの湿気を含む収納物であっても、湿気をこもらせることなく収納することができる。

30

【0048】

以上に、本発明の実施形態を示したが、本発明はこれに限られるものではなく、発明思想を逸脱しない範囲で各種の変更が可能である。例えば、上記の実施形態では、左右の側壁部にレール材が突設して備えられている場合について示したが、レール材は側壁部に埋め込まれて備えられていてもよいのはいうまでもなく、レール材の形状に制限はなく、状況にあわせて任意に選択されてよいのはいうまでもない。

【0049】

また、上記実施形態では、レール材に係止片が取り付けられ、係止片を介して、ハンガーパイプや棚板が取り付けられている場合について示したが、係止片は必ずしも独立した部材である必要はなく、ハンガーパイプや棚板の一部としてその機能を発揮するものであってもよいのはいうまでもない。さらに、係止片の形状にも制限はなく、機能やデザインなどを考慮して任意に選択されればよい。

40

【0050】

また、上記の実施形態では、いわゆる日本の住宅の一般的な規格寸法の 1 モジュール角である、およそ壁芯で 900 ~ 1000 mm 角の収納空間に適用した場合について示したが、本発明は、この寸法に制限されることなく、異なる形状の収納空間に適用することができるのはいうまでもない。さらに、本発明で提案したハンガーパイプ、棚板のほかに、

50

他の収納構造、たとえば、ローブなどとの組み合わせにより構成されてもよいのはいうまでもない。

【 0 0 5 1 】

また、第 1 のレール材 7 と第 3 のレール材 9 間の間隔と、第 2 のレール材 8 と第 4 のレール材 10 間の間隔とは、同じであってもよいし、異なってもよく、同じであれば、同じ形状の棚板が、第 1 のレール材 7 と第 3 のレール材 9 間及び第 2 のレール材 8 と第 4 のレール材 10 間を渡すように用いることができ、異なっていれば、それぞれ異なる形状の棚板が用いられればよい。

【 0 0 5 2 】

また、上記実施形態では、収納物として、衣類や箱類、かばん、ふとんなどが収納される場合について示したが、対象となる収納物に制限はなく、収納空間の構成の仕方によってあらゆるものが収納対象となる。

10

【符号の説明】

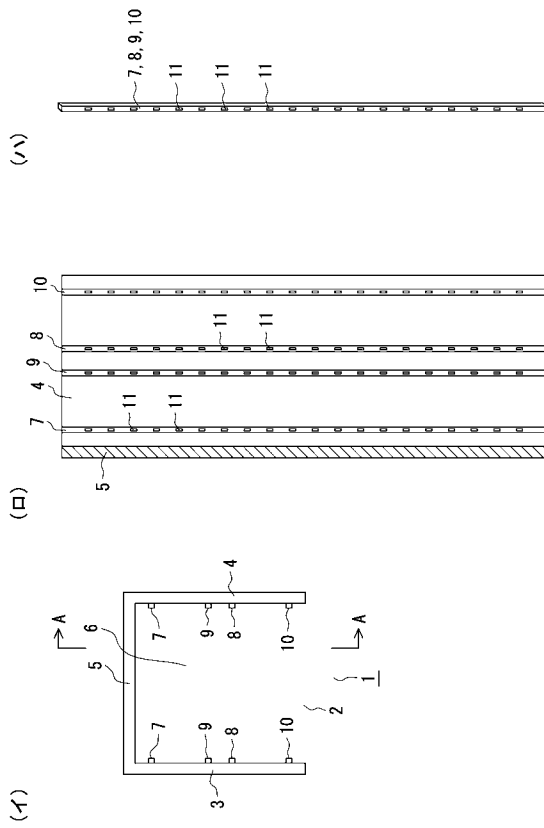
【 0 0 5 3 】

- 1 . . . 収納空間構造
- 2 . . . 正面部
- 3 . . . 側壁部（左）
- 4 . . . 側壁部（右）
- 5 . . . 背面部
- 6 . . . 収納空間
- 7 . . . 第 1 のレール材
- 8 . . . 第 2 のレール材
- 9 . . . 第 3 のレール材
- 10 . . . 第 4 のレール材
- 11 . . . 孔
- 12 . . . ハンガーパイプ取付用係止片
- 16 . . . ハンガーパイプ
- 17 . . . 棚板
- 20 . . . 棚板取付用係止片
- 23 . . . ハンガー
- 24、25 . . . 収納物（衣類など）

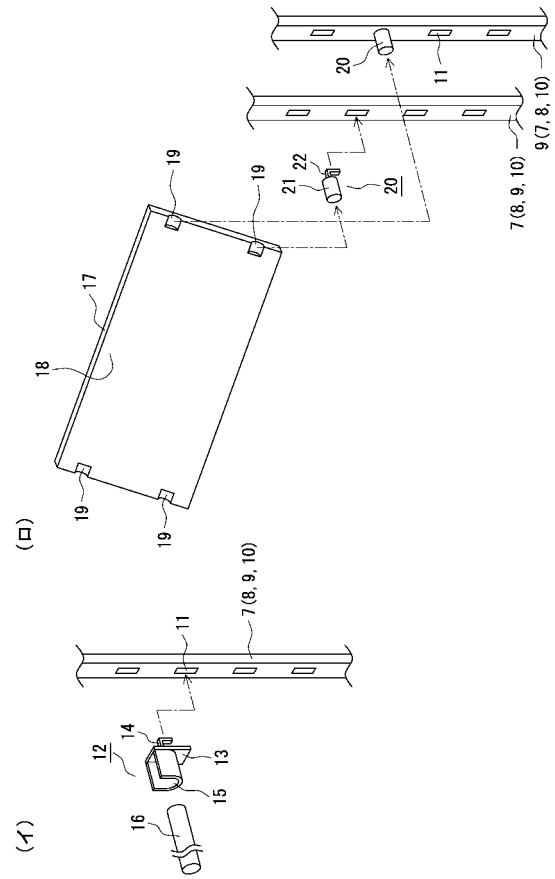
20

30

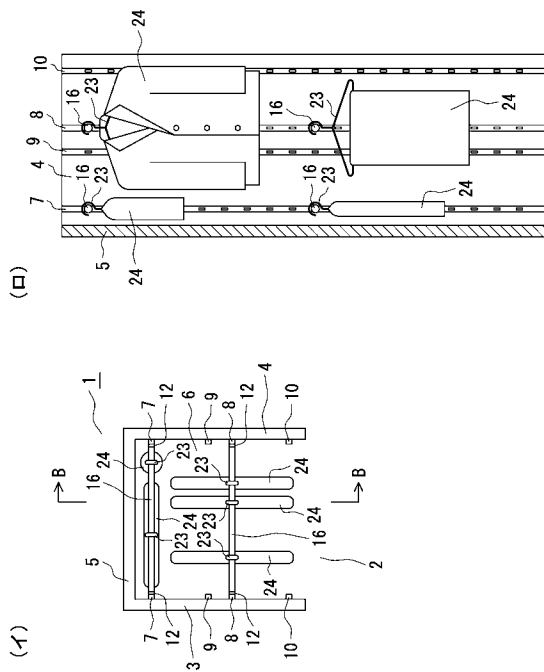
【図 1】



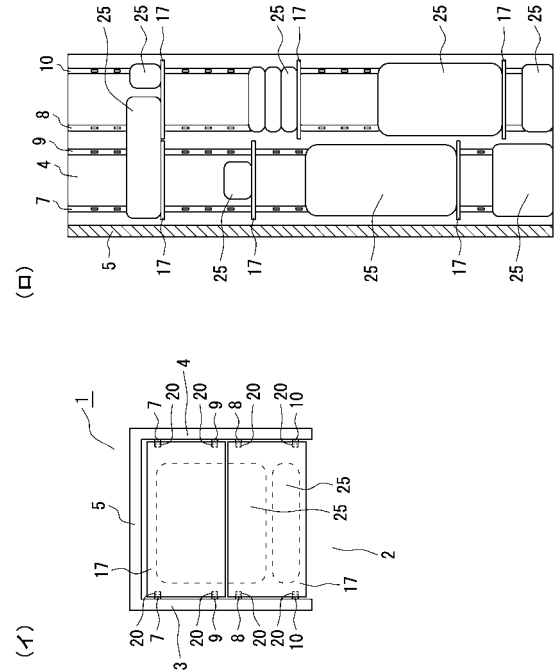
【図 2】



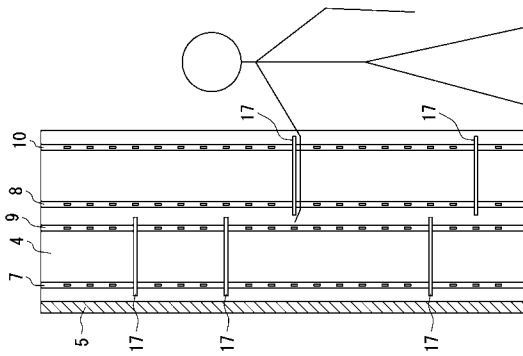
【図 3】



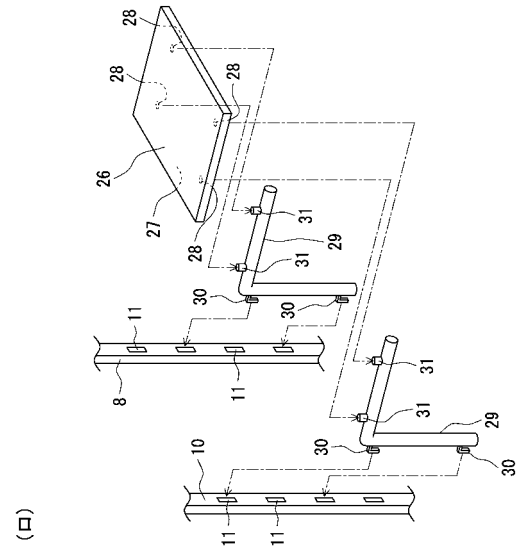
【図 4】



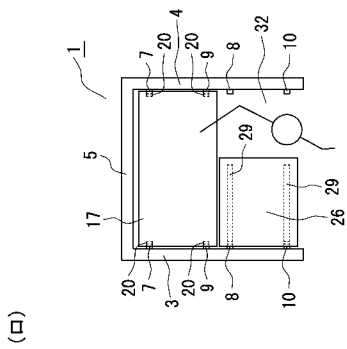
【図 5】



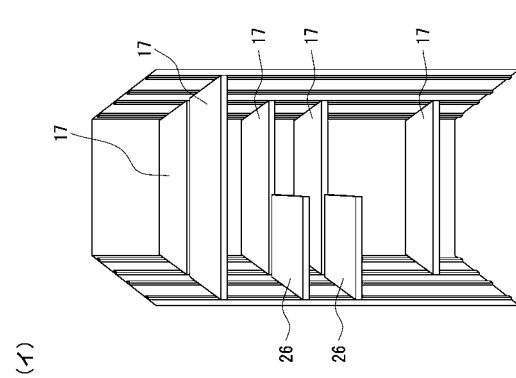
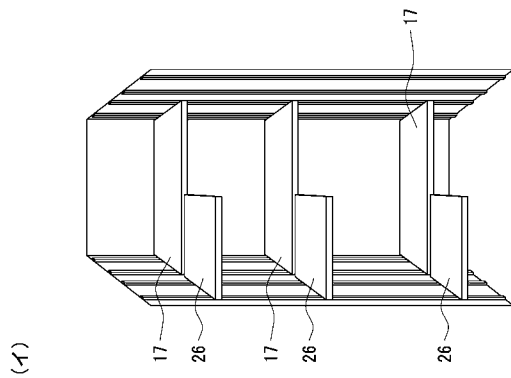
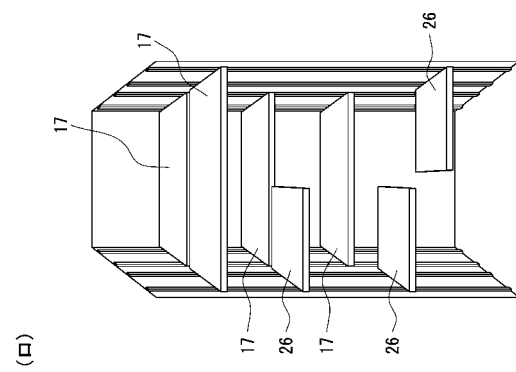
【図 6】



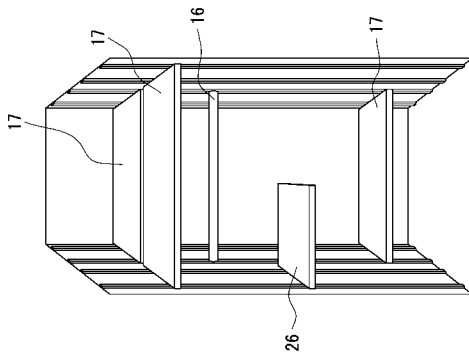
【図 7】



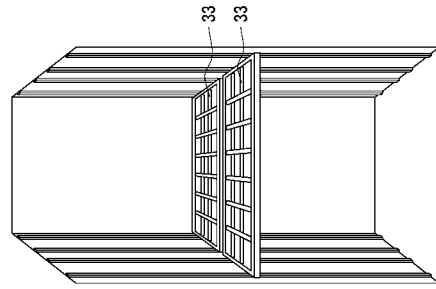
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード(参考)
	A 4 7 B 61/00 5 0 3 E	

(72)発明者 木口 正浩
大阪府大阪市北区梅田 3 丁目 3 番 5 号 大和ハウス工業株式会社内

(72)発明者 山口 知洋
大阪府大阪市北区梅田 3 丁目 3 番 5 号 大和ハウス工業株式会社内